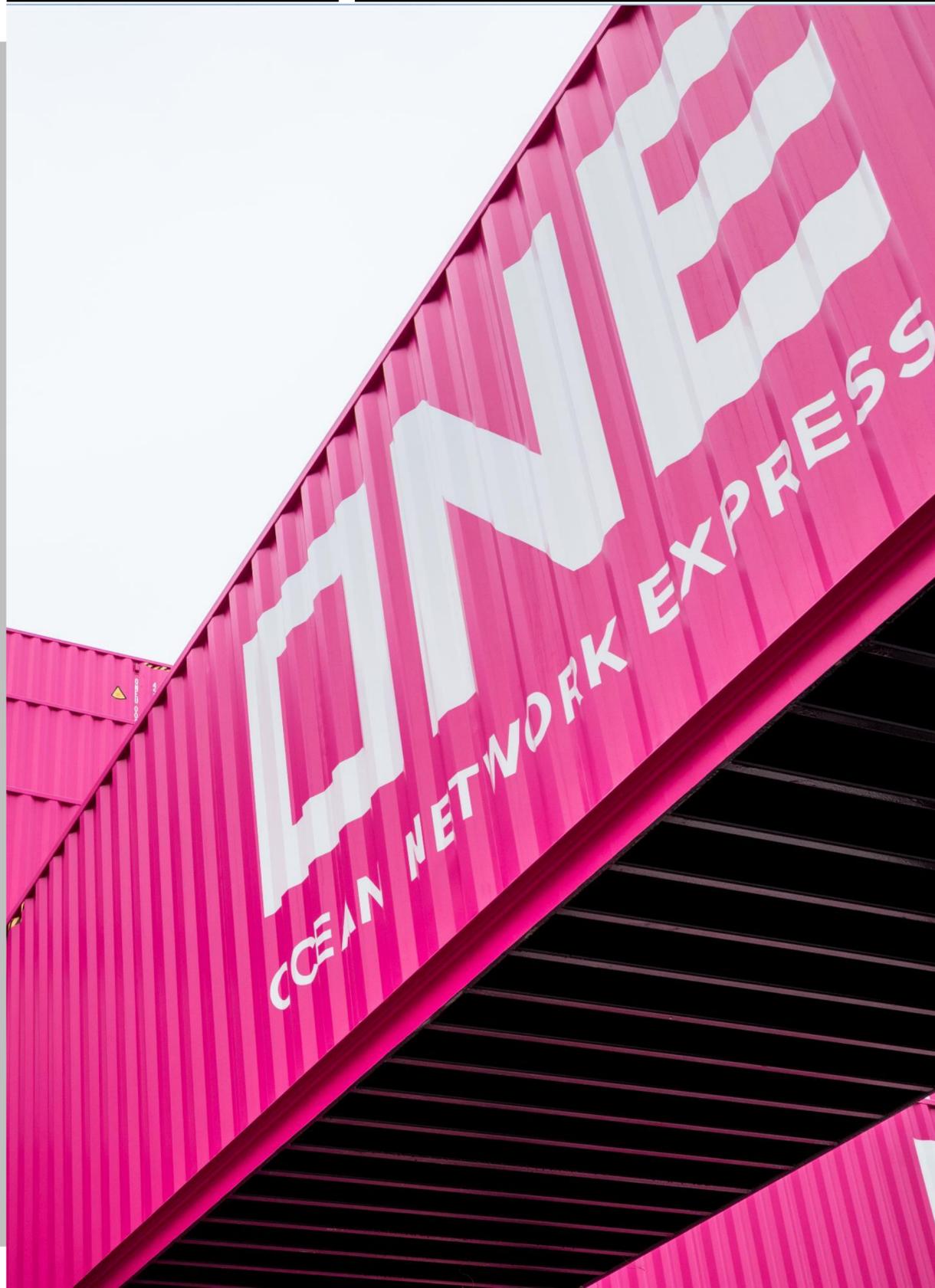


ONEの取り組み 2022年度第1四半期

ONE
OCEAN NETWORK EXPRESS

2022年7月29日





1. CEOからのメッセージ
2. 2022年度に向けた当社の取り組み
3. ONEの取り組み
 - 顧客サービス志向
 - オペレーションの優位性
 - グリーン戦略
 - ONEの持続可能性



ジェレミー・ニクソン
最高経営責任者

世界的な不透明感

インフレの発生と生活コストの増加、米ドルの急騰と燃料価格の高騰、そして進行中のロシアとウクライナの紛争は、一般消費者心理を大きく揺り動かしています。また、スリランカ政府とその経済の崩壊は、他の新興国市場への警鐘を鳴らすものです。こうした世界中における困難な局面は、製品発注のキャンセルや在庫率の上昇、コンテナ輸送の大幅な減少につながるのでしょうか。それとも、積み上がった輸送需要やピークシーズンの早期到来、中国の規制解除やアジアの製品に対する米国の継続的な需要によって、旺盛なコンテナ需要は続くのでしょうか？

現段階ではっきりしたことは言えませんが、この不透明な状況は、当社の上半期全体の取扱量にはそれほど影響は見られません。しかしながら、中国におけるロックダウンやロシアにおけるブッキングのキャンセルが重なり、前年の同期（4-6月）比5%減となりました。

全体的な運賃は昨年を大幅に上回る水準で推移しています。しかし、港湾や内陸部の混雑状況、世界的なインフレにより、引き続きオペレーションコストの上昇に直面しています。労働争議は港湾の混雑状況を助長しています。ここ数週の間、ドイツでは港湾ストライキ、英国では鉄道ストライキ、韓国と米国ではトラックストライキが発生しました。スケジュールを維持するために船速を上げ、その結果として、燃料消費量が増えています。また、代理店費用やIT関連費用の増加や税金の上昇も見られます。当社は、脱炭素化およびデジタル化プログラムへの大規模な投資に取り組み、最近では日本と韓国の造船所に10隻の船舶を発注しました。これらの船舶は、将来的にアンモニアやメタノールを動力源とすることや二酸化炭素回収装置を設置できるように建造される計画です。

上海のロックダウンへの対応

本年5月に中国当局は新型コロナウイルスへの規制を強化したものの、上海のターミナルでは、通常のオペレーションがほぼ完全に回復しています。しかし、トラック輸送と労働力不足は課題として残されており、各地でロックダウンが継続していることは、将来的な規制の恐れが依然として残っていることを示しています。

特にリーファー貨物や危険物ヤードに影響が出ており、4月には、お客様に対して輸送期間や温度が影響する貨物の仕向地の変更を検討するようご案内し、仕向地変更手数料（COD）や積戻し費用（ROB）を無料としました。また、上海から輸出されるONE QUOTEを利用した船積みに対してキャンセル料を無料とし、リーファー貨物については、上海に到着する前の積替港でコンテナを留め置きすることでお客様を支援することができました。

今後、再び状況が大きく変化した場合には、引き続きお客様をサポートさせていただきます。



ILWU交渉

米国西海岸の港湾労働者2万2,000人以上を代表する組合と雇用者との間で交渉が続けられています。労使契約は7月1日に失効しましたが、交渉は継続しております。雇用者側の代表であるPMAと労働者を代表するILWUは、「港湾は、地元、地域及び米国全体の経済にとって戦略的に重要であり、可能な限り早期に新しい契約を締結する必要性がある」という認識で一致している」との共同声明を発表しました。

ただし、米国西海岸の港湾状況が悪化するかもしれないと心配するお客様の意向を反映し、東海岸と西海岸の間で貨物がシフトしている状況が見受けられます。

将来への投資

より環境に配慮した未来への投資と、お客様の持続可能なサプライチェーンの確保は、当社の長期戦略の中核を成すものです。今年になって当社は新しい船舶を発注し、33,000本のコンテナを購入することで、この目標に向けて順調に歩みを進めています。

当社は船隊増強計画を進めており、5月には合計16億米ドル、10隻の超大型コンテナ船の発注を決めました。これらは、日本シップヤード株式会社と韓国の現代重工業株式会社において建造され、2025年の引渡しを予定しています。各船舶の規模は、13,700TEU型となる予定です。これは、3月に発表致しました当社の中期戦略を具体化するもので、将来的に持続可能なサプライチェーンを保ち、当社のグリーン戦略と脱炭素化計画を強化するものです。

これらの船舶は、最高水準の効率性を備えており、さまざまな最先端技術が盛り込まれています。

世界的に続くコンテナ不足に対応するため、今年には既に3,000本のリーファーコンテナと30,000本のドライコンテナを発注しました。

急速に変化するサプライチェーンの状況を認識し、変化に対応していくことは、お客様のニーズに応えていく上で不可欠なものです。2020年及び2021年には、短期備船を追加投入することにより、船舶のスペースを増強することができました。先日発表した今後10年の200億米ドルの投資戦略では、より多くの船舶を取得し、長期備船契約を締結するとともに、ターミナルやデジタルインフラのアップグレード、より多くのコンテナを取得します。

短期的には、船舶の速度を上げ、必要な航路に速やかに船舶を割り振るなどのオペレーション上の変更を実施しています。これにより、港湾の遅延や貨物量の増加によって引き起こされた滞留コンテナの問題を解消することに貢献しています。また、コンテナを出来るだけ迅速に循環させることは重要であり、ターミナルやお客様と協力し、コンテナの早期返却に取り組んで参ります。

新型コロナウイルスの規制により船員が下船できない状況は改善されましたが、依然として当局による検査と許可が必要な地域もあります。船主と密接に協力しながら、必要に応じて船員交代可能地への臨時寄港を継続していきます。

戦略 & 方針

3月に公表した中期戦略及びグリーン戦略に則り事業を着実に遂行していく

- サプライチェーンを支えるコンテナ船社として、高品質で安全なグローバル輸送サービスの提供を継続するための投資を着実に実行してまいります。
- グリーン戦略を当社の最重要経営課題と位置づけ、脱炭素化を始めとした業界の課題に取り組んでまいります。
- デジタル化や運航の効率化、リスク管理を更に強化、業界トップクラスの収益性と安全性をさらに高めてまいります。

投資

- 最新鋭大型コンテナ船の建造契約締結を発表しました。日本シップヤード株式会社および現代重工業株式会社との間で、13,700TEUを超える大型コンテナ船をそれぞれ5隻ずつ、計10隻を発注し、2025年に竣工予定です。
- 新造船 12,000個型（長期傭船）2隻は計画通り引き渡し済みで、北米西岸航路に投入しています。
- 中東/インド-モザンビーク直行サービス、MIM(Mozambique - India - Middle East) サービスを開始し、マポート直接寄港により南アフリカ、スワジランドやジンバブエといった国々の内陸マーケットへの新たなゲートウェイオプションを提供しています。

環境

- 13,700TEUを超える新造船は、アンモニアやメタノールなどの環境負荷の低い代替燃料やCCS*の「レディノーテーション**」或いはAiP（基本設計に対する承認）を取得予定です。
*CCS (Carbon dioxide Capture and Storage): CO2回収・貯留技術。燃焼排ガスに含まれるCO2を回収し、船上に一時貯留することを想定。
**レディノーテーション：将来の使用を見越してシステムの基本設計を事前に行う船舶に対し、船級協会が要件を満たした場合に付与する符号。
- PSA Corporation Ltd(PSA)とONEはグリーンサプライチェーンへの試みの一貫として、リーファーコンテナの冷凍ガスをリサイクルする試みに成功しました。
- 海運事業における脱炭素化に向けて、3回目のバイオ燃料のトライアルに成功しました。

デジタル

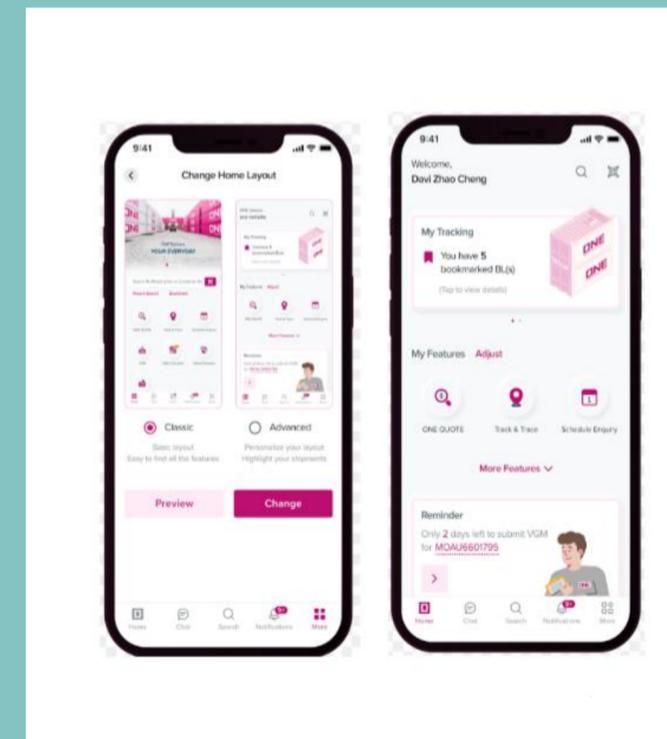
- eコマースの全てのサービス機能を一新し、新たな顧客体験を提供します。
- クラウド上に保管された顧客情報を各国のオフィスで共有、顧客への最適サービスの提供を通じた関係構築強化に活用します。

進捗



ONEのモバイルアプリ

- ・ 当社では、モバイルアプリをご利用されるお客様の利便性を向上のため、トップページから様々な機能にリンクされる一元的な検索機能を強化します。この検索機能では、B/L又はコンテナ番号のどちらかを検索条件とすれば、アプリ内の他のすべての機能にリンクできます。
- ・ また、モバイルアプリの画面レイアウトをカスタマイズできる機能を開始する予定です。ユーザーは、個々の好みに応じてモバイルアプリ上で特定機能の表示・非表示を選択することができます。



お客様とのタッチポイントの増強

- ・ 当社は、新しいeコマース・プラットフォームの一部として、ブッキングのターンラウンド及び確認プロセスをさらに強化したサービスを引き続き提供します。
- ・ 当社は、電子決済ソリューションによるオンライン決済をインドネシアとタイにも導入し、今後は、中国やインドに限らず、他国への展開も検討しています。

サービス強化

- 当社は、Salesforce社のCRMソリューションである「Service Cloud」の試験的な導入を一部の国で開始しました。「Sales Cloud」と「Service Cloud」を統合して導入することで、お客様を全方位から把握できるようになり、当社のサービス全体のレベルを向上させることができると確信しています。
- 当社は、サービスチャネル戦略とデジタルソリューションを連携させ、営業・カスタマーサービスチームとお客様との距離を 一歩縮めることを目指します。
- お客様からのお問い合わせに対して、チャット、ウェブ、電子メール、電話など、確立されたサポートチャネルを通じて、当社は一貫したサービス品質を提供できるように努めて参ります。



超大型コンテナ船10隻を発注

当社は、現代重工業株式会社及び日本シップヤード株式会社の両社と、各々5隻の建造契約を締結し、合計10隻の最新の超大型コンテナ船が当社の船隊に加わることとなります。これらの船舶は、名目上13,700TEU以上の積載能力を有し、2025年に引き渡される予定です。

今回の投資は、3月に発表した当社の中期戦略を具体化するもので、2030年までに総額200億米ドルの投資計画を示しています。これは当社のグリーン戦略の一部であり、脱炭素化を加速するという当社の取り組みの一環です。

これらの船舶は、環境への影響を低減するために、最高水準の効率性を備え、様々な最先端技術を導入し設計されています。また、船舶はアンモニアやメタノールを動力源とする“ready notation”か、“AiP (Approval in Principle)”のいずれかを取得し、また炭素の回収と貯留機能を備えるように計画されています。さらに、この船隊は当社が将来的に長期的な代替燃料と脱炭素化技術の探求の幅を広げることを可能にします。



グリーン・オフィスを新設

当社は、シンガポールにグリーン・オフィスを開設しました。このオフィスは、グリーン・イニシアティブのための教育的でインタラクティブなスペースとなるよう設計されています。

このスペースは、様々な重要な業界のパートナーとのコラボレーション・ハブとして利用されます。当社は、オープン・コミュニティ・エコシステムを通じて、環境活動を加速させるよう取り組んでいます。

新オフィスは、当社のグリーン戦略をサポートする部門や27カ国を統括する南アジア地域本社を含む、多くのGHQ機能を有するグローバル本社の位置付けとなります。



スコープ1及び2の排出量の開示

当社は、2021年の排出量の結果を発表しました。当社は主に運航による燃料の燃焼から発生する直接的排出量のスコープ1と、当社オフィスにおける購入エネルギーの消費から発生するスコープ2の間接的排出量の両方を開示しています。船舶が停泊中にエンジンを完全に停止し、陸上から電力を供給する（陸電）分も含めています。

排出量区分	2021年
スコープ1（原単位）	44.81 gCO ₂ E/TEU-km
スコープ1（燃料の消費）	10,927,754 tCO ₂
スコープ2（市場ベース）	10,215.85 tCO ₂
スコープ2（場所ベース）	10,265.57 tCO ₂

2021年の当社のスコープ1排出量（原単位）は44.81gCO₂E/TEU-kmでした。これは、前年よりわずかに増加しており、世界中の港湾施設の大混雑など様々なオペレーション上の問題が原因となっています。

当社は船隊の効率化とアップグレードおよびオペレーションの改善を実施することにより、排出原単位を改善するための努力を継続します。グローバルサプライチェーン全体の状況は正常化しつつあり、実現可能であると思われます。



**SUSTAINABILITY
REPORT
2022**



グローバルな取り組み

- 当社は、サステナビリティ・レポート2022を発行し、その中で、脱炭素社会への取り組みや、安全性・効率性・デジタル化を通じて高付加価値サービスを実現するオペレーションの優位性に向けた取り組みを紹介しました。
(詳細は[こちら](#)もご覧ください。)
- EcoVadis — 当社は、EcoVadis社の2022年のサステナビリティ評価で、銀メダルを受賞しました。
- #ONEOcean — 今年5月にシンガポールのプンゴル公園で、当社役員をはじめ、南アジア地域統括、GHQメンバーが植樹に参加しました。また、5月と6月に、マジェンタ・シンガポール・ターミナルから7 kmに位置するセント・ジョンズ島へのエコツアーを開催し、GHQから35名が参加しました。2022年にはさらに5回のツアーが予定されています。当社は、シンガポール海域における生態系の多様性維持についても、責任を果たしていきます。
- #ONEPinkRibbon — GHQ及びONE NAは、顧客であるEvermark社の貨物にピンクリボンのコンテナ3本を提供し、乳がん啓発に協力するとともに、共同で「乳がん研究連盟® (BCRF)」に寄付を行いました。

グローバルに展開するCSR活動

当社は、2018年の開業以来、世界各地で多くのCSR活動に参加しており、責任ある持続可能なグローバル企業として、地域社会への貢献を続けています。2022年4月から6月までの間に、延べ1,430人の社員が、様々な価値ある活動に参加しました。

- ONE Japan – (株) 商船三井と共同で、日本からザンビア向けに子供靴を無償輸送
- ONE India – コルカタにおいて“Future Hope India”とともに教育支援活動、ムンバイにおいて“GOONJ”とともに災害救済活動、国内に1万本の植樹を実施
- ONE Hong Kong – "HandsOn Hong Kong"とともに緊急時キットを寄贈
- One Ghana – コトソでの「世界水の日」イベントに55本の樹を寄贈
- ONE UAE – アルゾラ自然保護区でマングローブの植樹
- ONE Spain – “AIDA”とともに書籍の寄贈と著作権啓発イベントへの参加
- ONE GHQ – シンガポール日本人学校クレメンティ校に海事教室を提供
- ONE Thailand – ラッカバンにおいて環境に優しい製品の試用、バンコクにおいてリサイクルキャンペーンを実施





ありがとうございました
www.one-line.com